

17

1月15日・火曜日 2019年（平成31年）

情報通信研究機構 **ICT** 先端研究

13

現在、洋上で利用できる主な通信サービスは衛星通信であり、その伝送速度は1秒当たり数ギガビットと陸上で利用できる通信サービス

片山 典彦
ワイヤレスネットワーク総合研究
センター宇宙通信研究室研究員

A black and white photograph of a vintage record player. The device features a large, ornate speaker cabinet with decorative carvings and a dark wood finish. On top of the cabinet sits a circular turntable with a stylus resting on a vinyl record. The entire unit is positioned on a dark, reflective surface.

と比較して非常に低速な環境となつてゐる。近年は洋上での通信利用が拡大しており、洋上で使用する装置の遠隔監視や操作を行うための回線、陸上と同等のインターネットサークルスを利用可能とするための回線等が求めら

これらの中には、開発を行つてゐる。これらの実現には、開発した性質が、必要となるため、NTTでは衛星を活用した高速通信技術の開発を進めており、洋上開発を利用してできる地球局の開発を行つてゐる。

球局を船舶や
上中綫器に接続し
洋上での通信を
施している。こ
用開発と実験の経
上のさまである
トフォームで
る地球局の条
て述べたい。

無人の洋上実験を実現して、地球局開設から洋上実験が利用できることについて

能の向上に波によ
ため、正直
と追尾を
術が必要。

洋上では確かな衛星捕獲の動搖がある。

常 捕 技 設 ある 容 地球冒 要。 • 熱 のたは 環境 度を 作を やコ 発が 安を を •

熱対策＝屋外使用
の、さまざまなもの
でも安定した動
実現するユニットの
ンポーネントの開
必要。

・安定運用による開港動向の長化が必須であるため、以上のICTで中継器を設置する。超豪華です。

の球局の運営が、近々改修されるに至る。この改修は、主として球場の外観を整備するもので、特に外壁の塗装と照明設備の強化が行われる。
（HT）

通信の場合、地
性能のみを向上
も伝送速度を上
には限界がある
年はHigh
throughput
tellit e
S) の開発が進
星側の中継伝送
大きくし、1コ

科学技術・大学

**TYPE OF
INDUSTRY**